

## 巻頭言 時間よ止まれ

西川 伸一

一九八〇年、私は大学一年生だった。当時は六月下旬に和泉校舎（まだ和泉キャンパスとはいわなかった）で和泉祭が、十一月に駿河台校舎で駿台祭が開催されていた。世紀をまたぐ前後に学内で複雑な事情があり、いまでは、十一月に和泉キャンパスで明大祭が開かれている。開催回数は駿台祭の回数を引き継いだ。生田キャンパスの生田祭も生明祭に名称が変わった。

私はある文科系サークルに所属していた。今では「くじら公園」とよばれているらしい和泉キャンパス横の公園で、一升瓶などを持ちこんで花見さながらの前夜祭の宴がそのサークルでもたれた。サークルでは活動内容のパネル展と模擬店を出すことになっていた。

ときに私は一八歳である。もはやとても許されないだろうが、あの



ころは未成年であろうと学生ならば成人とみなされ、アルコールにも「おおらか」だった。怖い先輩たちに強要されるままに日本酒をおおりに、泥酔した。その結果、翌日からの和泉祭の本番は家で二日酔いどころか、三日酔いで布団から起き上がれなかった。

そのため私は生涯の悔いを二つつくることになる。一つは、サークルの模擬店のシフトをすっぽかし、その後の反省会で名指しこそされなかったが、ある女性の先輩から叱られた。会議が終わったあとにすぐに「すみませんでした」と謝りに行けばいいものを、萎縮してしまいい下を向くのみだった。その先輩は卒業後すぐにガス爆発事故に巻き込まれ、もうこの世にいない。その報に接したとき、謝罪しなかったことを痛烈に悔やんだ。これについては『Beyond the State』第一二号（二〇一一）にも書いた。

もう一つは、第二校舎で六月二九日に催された太田裕美のコンサートに行けなかったことだ。太田裕美の楽曲にときめきを感じたきっかけは覚えていないが、高校生のころにはすでに熱烈なファンになって



いた。友だちがもっていた彼女のアルバムをカセットテープにダビングしてもらっては聴いたものだ。彼女はその頃毎週土曜日の夕方にラジオ番組「太田裕美のゴロゴロサタデー」（ニッポン放送：一九七七年四月～九月）に出演していて、部活のない土曜日の夕方はラジオにかじりついて、彼女の肉声にわくわくしていた。

高校から大学、さらに大学院へと進んで、あろうことか本学政治経済学部の専任助手に採用された。結婚して長女が生まれて、育児休暇をとった妻とともに〇歳の長女を連れて一九九八年三月末からイギリスに在外研究に出かけた。そのとき持参したのが『魂のピリオド』という太田裕美のミニアルバムである。そこに収められている「魂のピリオド」は哀しい曲だ。一〇月に妻が職場復帰のため長女と一緒に帰国したあと、がらんとした下宿先でこの曲をかけては泣いていた。いまでも聴くと、過ぎし孤独な滞英生活が脳裏に浮かんでくる。

さて、中学時代からの親友が「クボタツ」の芸名でシンガーソングサラリーマンをやっている。ついに二〇一三年九月に初のソロライブ



を開いた。満席の盛況でびっくりした。その彼から二〇一四年四月に「9/12に渋谷で太田裕美のライブがあり（ママ）みたいなんですが、行きませんか」とメールが来た。すぐに私は「絶対行きます！」と返信した。もつべきものは友だちである。

九月一二日、やっとその日が来た。会場に行くとおじさんがほとんどであった。みんな青春時代に胸を焦がしたんだなあ。やがて開演時刻となる。彼女は「夏の扉」（一九七五）を歌いながら登場した。その瞬間、私は三四年前に出された宿題をようやく果たせた気がして、感激で胸がいっぱいになった。時節柄期待していた「九月の雨」（一九七七）もセットリストにあった。アンコールを含めて一七曲も彼女は歌ってくれた。MCも楽しいトークだった。

ところで、『男はつらいよ 旅と女と寅次郎』（一九八三）という映画がある。寅さんが都はるみ扮する「京はるみ」を、演歌の大歌手とは知らずに恋してしまう物語だ。その素性が明かされたあと、「京はるみ」が寅さんの実家であるだんご屋・とらやにやってくる。「京はるみ」



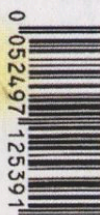
はだんご屋にちなんで、「アッコ椿は恋の花」(一九六四)をカラオケで熱唱する。とらやの面々や裏の朝日印刷のタコ社長やロードーシャ諸君が口を半開きにして、恍惚の表情で聴きふけている。

あの日の私もたぶん同じ顔つきだったに違いない。迫力満点の「ドール」(一九七八)を聴きながら、私は心の中で「時間よ止まれ」と叫んでいた。その後も、気分の高揚が数日間収まらなかった。

「クボタツ」からしばらくしてまたメールが来た。二〇一五年一月九日の「杉田二郎・太田裕美 ニューイヤークンサート」へのお誘いである。もちろんすぐに「絶対行きます!」と返信した。彼はチケット発売時刻ジャストに予約の電話をしてくれ、なんと前から二列

太田裕美

『太田裕美コンサート2014~夏の終わりのtutumikko~』



主催：NEXTROAD  
企画制作：ボイス&リズム  
お問合せ：ネクストロード 03-5712-5232  
※drink代別途必要  
※未就学児童の入場はご遠慮ください。  
Mt. RAINIER HALL SHIBUYA PLEASURE PLEASURE  
2014.9.12(金)

18:15 開場

19:00 開演

全席指定

¥5,400

【消費税込み】



2 階  
2 A 列  
2 番

株式会社ネクストロードプロダクション

200421432801020



目の席をゲットしてくれた。前回は二階席だった。

そして、当日。前列二列目のステージに向かって左側。もう目の前に、ずっとあこがれてきた太田裕美がいる。一瞬たりとも彼女から目を離すまい。「木綿のハンカチーフ」(一九七六)のアレンジを変えたスローなバラード調の歌い出しに聴き惚れ、もう一万回以上歌ってきたこの曲なのに、去年の九月に二番を歌うところを三番を歌ってしまったとの失敗談MCに腹を抱えて笑った。「しあわせ未満」(一九七七)ならぬ「しあわせ以上」のひとときを堪能した。

「クボタツ」さん、チケット取り、また甘えていかな。いやいや、「あなたに甘えたくなくて」(「雨だれ」(一九七四))ではいけない。チケットは自分で取ります！これが次の宿題だね。

二〇一五年一月二八日

No. 1410-787

## 杉田二郎 & 太田裕美ニューイヤーコンサート

2015年1月9日(金) 18:30 開場 19:00 開演

江東区文化センター ホール

東京メトロ東西線「東陽町」駅1番出口徒歩5分

全席指定 一般料金 ¥3,500(税込)

主催:(公財)江東区文化コミュニティ財団 江東区文化センター

問合せ先:江東区文化センター 03-3644-8111

2列 11番

\*6歳からご入場いただけます \*開演後は入場を制限する場合がございます。



参考文献・CDボックス「太田裕美の軌跡」First Quartet  
r」(一九九九) 付属ブックレット、ソニー・ミュージックレコーズ。